

本資料のうち、枠囲みの内容は、
商業機密あるいは防護上の観点
から公開できません

東海第二発電所 工事計画審査資料	
資料番号	工認-129 改1
提出年月日	平成30年2月20日

日本原子力発電株式会社

東海第二発電所 工事計画審査資料

その他発電用原子炉の附属施設のうち

非常用電源設備 非常用発電装置

(非常用ディーゼル発電装置)

(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置)

(本文)

8 その他発電用原子炉の附属施設

1 非常用電源設備

1 常用電源設備との切替方法

1.1 非常用ディーゼル発電装置

a. 非常用ディーゼル発電機

1.2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機

1.3 常設代替高圧電源装置

a. 常設代替高圧電源装置

1.4 緊急時対策所用発電機

a. 緊急時対策所用発電機

1.5 可搬型代替低圧電源車

a. 可搬型代替低圧電源車

2 非常用発電装置

2.1 非常用ディーゼル発電装置

(2) 内燃機関

イ 機関及び過給機

・常設

a. 非常用ディーゼル発電機内燃機関

ロ 調速装置及び非常調速装置

a. 非常用ディーゼル発電機調速装置

b. 非常用ディーゼル発電機非常調速装置

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備

・常設

a. 非常用ディーゼル発電機冷却水ポンプ

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備

1 空気だめ

・常設

a. 非常用ディーゼル発電機空気だめ

2 空気だめの安全弁

・常設

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンク

・常設

a. 非常用ディーゼル発電機燃料油デイトンク

(4) 燃料設備

イ ポンプ

- ・常設
- a. 非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ

ロ 容器

- ・常設
- a. 軽油貯蔵タンク

ニ 主配管

- ・常設

(5) 発電機

イ 発電機

- ・常設
- a. 非常用ディーゼル発電機

ロ 励磁装置

- ・常設
- a. 非常用ディーゼル発電機励磁装置

ハ 保護継電装置

- a. 非常用ディーゼル発電機保護継電装置

ニ 原動機との連結方法

(直結)

(6) 冷却設備

ロ ポンプ

- ・常設
- a. 非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ

ハ ろ過装置

- ・常設
- a. 非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ

ホ 主配管

- ・常設

2.2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(2) 内燃機関

イ 機関及び過給機

- ・常設
- a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関

- ロ 調速装置及び非常調速装置
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機調速装置
 - b. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機非常調速装置
- ハ 内燃機関に附属する冷却水設備
 - ・常設
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機冷却水ポンプ
- ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備
 - 1 空気だめ
 - ・常設
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機空気だめ
 - 2 空気だめの安全弁
 - ・常設
- ホ 燃料デイトンク又はサービスタンク
 - ・常設
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油デイトンク
- (4) 燃料設備
 - イ ポンプ
 - ・常設
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ
 - ニ 主配管
 - ・常設
- (5) 発電機
 - イ 発電機
 - ・常設
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機
 - ロ 励磁装置
 - ・常設
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置
 - ハ 保護継電装置
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機保護継電装置
 - ニ 原動機との連結方法
 - (直結)
- (6) 冷却設備
 - ロ ポンプ
 - ・常設
 - a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプ

ハ ろ過装置

- ・常設

a. 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ

ホ 主配管

- ・常設

2 非常用発電装置に係る次の事項

2.1 非常用ディーゼル発電装置

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変更前		変更後			
名 称		非常用ディーゼル発電機 内燃機関*1		変更なし			
機 関	種 類	—	ディーゼル機関*2				
	出 力	kW/個	5500*3, *4				
	回 転 速 度*5	min ⁻¹ *6	429				
	燃 料	種 類	—			軽油*8	
		使 用 量	L/h/個			1515*8	
個 数		—	2				
取 付 箇 所	系 統 名 (ライン名)	—	2C 非常用ディーゼル発電機内燃機関 2C 非常用ディーゼル発電装置*8			2D 非常用ディーゼル発電機内燃機関 2D 非常用ディーゼル発電装置*8	CS-B1-5
	設 置 床	—	原子炉建屋 付属棟 EL. 0.70 m*8			原子炉建屋 付属棟 EL. 0.70 m*8	
	溢水防護上の 区画番号	—	—			EL. 0.80 m 以上	
	溢水防護上の 配慮が必要な 高さ	—	—		EL. 0.80 m 以上		
過 給 機	種 類	—	排気タービン式		変更なし		
	出 口 の 圧 力	kPa	123*3 (最大連続回転時)				
	回 転 速 度*5	min ⁻¹ *6	16250 (最大連続回転数)				
	個 数	—	4*7				
	取 付 箇 所	—	機関と同じ*8				

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内燃機関」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 サイクル縦形 ディーゼル機関」と記載。

*3：S I 単位に換算したもの。

- *4 : ディーゼル機関の出力を示す。
- *5 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。
- *6 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「r. p. m」と記載。
- *7 : 記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (各 2)」と記載。
- *8 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

			変 更 前		変 更 後
			非常用ディーゼル 発電機調速装置	非常用ディーゼル 発電機非常調速装置	変更なし
名	称	—	油圧式	電気—空気式	
種	類	—			

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称、種類、容量、個数及び取付箇所
(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前		変更後		
名 称			非常用ディーゼル発電機 冷却水ポンプ*1		変更なし		
ポ ン プ	種 類	—	うず巻形*2				
	容 量	m ³ /h/個					
	個 数	—	2				
	取付箇所	系 統 名 (ライン名)	—	2C 非常用 ディーゼル 発電機冷却 水ポンプ 2C 非常用 ディーゼル 発電装置*4			2D 非常用 ディーゼル 発電機冷却 水ポンプ 2D 非常用 ディーゼル 発電装置*4
	取付箇所	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*4			
	取付箇所	溢水防護上の区画 番 号	—	—		CS-B1-5	CS-B1-3
取付箇所	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—	EL. 0.80 m 以上				

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結ポンプ」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻形」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

- 1 空気だめの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

名称		変更前		変更後	
名	非常用ディーゼル発電機空気だめ A	非常用ディーゼル発電機空気だめ B*1			
種	類	横置円筒形*2			
容	量	m ³ /個*3	以上*5 (3*4, *6)		
最	高 使 用 圧 力	MPa	3.24*7		
最	高 使 用 温 度	℃	60*8		
主	筒	内 径	1200*6, *8		
	板	厚 さ *9	(22*6)		
	鏡	厚 さ	(22*6)		
要	鏡板の形状に係る寸法	mm	1200*6, *8 (内面における長さ)		
	マンホール外径	mm	300*6, *8 (内面における短径の2分の1)		
寸	マンホール厚さ	mm	424*6, *10, *11, 324*6, *10, *12		
	マンホール平板厚さ	mm	(22*6, *8)		
	全	長	2904*6, *10		
材	筒	板	SM50B		
	鏡	板	SM50B*8		
料	マンホール平板	板	SM50B*8		
	個	数	2*13	2*13	
取	系 統 名 (ラ イ ン 名)	2C 非常用ディーゼル発電機空気だめ A	2D 非常用ディーゼル発電機空気だめ A	2C 非常用ディーゼル発電機空気だめ B	2D 非常用ディーゼル発電機空気だめ B
		2C 非常用ディーゼル発電装置*5	2D 非常用ディーゼル発電装置*5	2C 非常用ディーゼル発電装置*5	2D 非常用ディーゼル発電装置*5
付	設 置 床	原子炉建屋付属棟 EL-4.00 m*5			
	溢水防護上の区画番号	—			
箇	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—			

注記 *1: 本設備は記載の適正化のみを行うものであり, 手続き対象外である。

*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒機形定置式」と記載。

*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「0」と記載。

*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3,000」と記載。

*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

*6: 公称値を示す。

- *7：S I 単位に換算したもの。
- *8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 27 日付け建発第 112 号で届出た工事計画の添付書類「Ⅲ-1-17 内燃機関に附属する空気だめの強度計算書」による。
- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。
- *10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 51 年 11 月 27 日付け建発第 112 号で届出た工事計画の添付図面「第 10-3 図 空気だめ本体図 (1/2) (非常用ディーゼル発電装置用)」による。
- *11：マンホール管台外径における長径を示す。
- *12：マンホール管台外径における短径を示す。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4 (各 2)」と記載。

2 空気だめの安全弁の名称、種類、吹出圧力、吹出量、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

名 称		変 更 前		変 更 後	
種 類	—	3-14Z1*1	3-14Z101*1	3-14Z102*1	*2
吹 出 圧 力	MPa	非平衡型*3			
吹 出 量	kg/h	3.24*4、*5			
呼 び 径	—	262以上*4			
リ フ ト	mm	20 A			
の ど 部 の 径	mm				
弁 座 の 径	mm				
材 料	—	SF40A*7			
個 数	—	1**8	1**8	1**8	
系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	3-14Z1 2D非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z101 2C非常用ディーゼル発電装置*7	3-14Z102 2C非常用ディーゼル発電装置*7	
設 置 床 上 の 溢 水 防 護 区 画 番 号	—	原子炉建屋付風棟 EL.-4.00 m*7	原子炉建屋付風棟 EL.-4.00 m*7	原子炉建屋付風棟 EL.-4.00 m*7	
溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—			

変更なし

法記

*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめの安全弁」と記載。

*2：本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低揚程バネ式」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年11月27日付け建発第112号で届出た工事計画の添付書類「Ⅲ-I-18 内燃機関に付属する空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

*5：S I 単位に換算したもの。

*6：公称値を示す。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4（空気だめ1個につき1個）」と記載。

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前*1	変更後
名 称			非常用ディーゼル 発電機燃料油 デイトンク	変更なし
種 類	—	横置円筒形		
容 量	m ³ /個	<input type="text"/> 以上 (14*2)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	静水頭		
最 高 使 用 温 度	℃	55		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm	1800*2	
	胴 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	鏡 板 厚 さ	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	鏡板の形状に係る寸法	mm	1800*2 (鏡板中央部内半径)	
			180*2 (鏡板隅の丸み半径)	
	管台外径(燃料入口)	mm	48.6*2	
	管台厚さ(燃料入口)	mm	<input type="text"/> (3.7*2)	
	管台外径(燃料出口)	mm	60.5*2	
	管台厚さ(燃料出口)	mm	<input type="text"/> (3.9*2)	
	マンホール外径	mm	518*2	
	マンホール厚さ	mm	<input type="text"/> (9*2)	
	マンホール平板厚さ	mm	<input type="text"/> (12*2)	
	全 長	mm	6210*2	
材 料	胴 板	—	SS41 相当	
	鏡 板	—	SS41	
	マンホール平板	—	SS41 相当	
個 数	—	2		

(続き)

		変 更 前*1		変 更 後		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2C 非常用 ディーゼル 発電機 燃料油デイ タンク 2C 非常用 ディーゼル 発電装置	2D 非常用 ディーゼル 発電機 燃料油デイ タンク 2D 非常用 ディーゼル 発電装置	変更なし	
	設 置 床	—	原子炉建屋 付属棟 EL. 4.05 m	原子炉建屋 付属棟 EL. 4.65 m		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		CS-B1-8	CS-B1-6
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—			—	—

注記 *1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*2：公称値を示す。

(6) 冷却設備に係る次の事項

- ロ ポンプの名称，種類，容量，揚程又は吐出圧力，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，個数及び取付箇所並びに原動機の種類，出力，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後
名 称			非常用ディーゼル発電機用 海水ポンプ		変更なし
種 類	種 類	—	ターボ形		
	容 量	m ³ /h/個	272.6 以上 (272.6 ^{*1})		
	揚 程	m	44 以上 (44 ^{*1})		
	最 高 使 用 温 度	MPa	0.70		
	最 高 使 用 温 度	°C	38		
主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm	187.0 ^{*1}		
	吐 出 内 径	mm	250.0 ^{*1}		
	コ ラ ム 外 径	mm	318.5 ^{*1}		
	コ ラ ム 厚 さ	mm	□ (10.0 ^{*1})		
	高 さ	mm	8743 ^{*1}		
材 料	ケ ー シ ン グ	—	□		
	個 数	—	2		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2C 非常用 ディーゼル発電 機用海水ポンプ 2C 非常用 ディーゼル 発電装置 ^{*2}	2D 非常用 ディーゼル発電 機用海水ポンプ 2D 非常用 ディーゼル 発電装置 ^{*2}	
	設 置 床	—	海水ポンプ室 EL. 0.80 m ^{*2}		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		

(続き)

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機	変更なし
	出 力	kW/個	55* ¹	
	個 数	—	2	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ* ²	

注記 *1：公称値を示す。

*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ハ ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，
個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前		変更後
名 称			非常用ディーゼル発電機用 海水ストレーナ		変更なし
種 類	—	たて置円筒形*1			
容 量	m ³ /h/個	331 以上 (331 *3)			
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.70*4			
最 高 使 用 温 度	℃	38			
主 要 寸 法	胴 内 径	mm			
	胴 板 厚 さ	mm			
	カ バ ー 厚 さ	mm			
	管台口径（海水入口）	mm			
	管台厚さ（海水入口）	mm			
	管台口径（海水出口）	mm			
	管台厚さ（海水出口）	mm			
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm			
	全 長	mm			
材 料	胴*2	—	SCS14		
	ボ ン ネ ッ ト*2	—	SCS14		
	カ バ ー*2	—	SCS14		
	フ ラ ン ジ*2	—	SCS14		
個 数	—	2			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	2C 非常用 ディーゼル 発電機用 海水ストレーナ 2C 非常用 ディーゼル 発電装置*5	2D 非常用 ディーゼル 発電機用 海水ストレーナ 2D 非常用 ディーゼル 発電装置*5	
	設 置 床	—	海水ポンプ室 EL. 0.80 m*5	海水ポンプ室 EL. 0.80 m*5	
	溢水防護上の区画番号	—	—		
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—			

注記*1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形」と記載。

- *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要材料」と記載。
- *3：公称値を示す。
- *4：S I 単位に換算したもの。
- *5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *6：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日
付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 4-2 図 非常用予備発電
装置 内燃機関冷却系 ストレーナ構造図（その 1）（非常用ディーゼル発電機用）」に
よる。

ホ 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し、可搬型の場合は、取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前				変更後							
名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径*1 (mm)	厚さ (mm)	材料
*2 非常用ディーゼル 発電機用海水ポンプ ～ 非常用ディーゼル 発電機用海水 ストレーナ	0.70*3	38	267.4	9.3*1	SPTT410*4	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし*5	
非常用ディーゼル 発電機用海水 ストレーナ	0.70*3	38	267.4	9.3*1	SPTT410*4	変更なし	変更なし	変更なし	267.4*6 /267.4*6 /-	9.3*1,*6 /9.3*1,*6 /-	SPTT410*6
*2,*8,*11 非常用ディーゼル 発電機用海水 ストレーナ ～ 空気冷却器及び 潤滑油冷却器 ～ 非常用ディーゼル 発電機清水冷却器	0.70*3	38	267.4	9.3*1	SPTT42 SPTT370*4	変更なし	変更なし	変更なし	267.4*6 /267.4*6 /-	9.3*1,*6 /9.3*1,*6 /-	SPTT370*6
(次頁へ続く)	0.70*3	38	165.2	7.1*1	SPTT370*4	変更なし	変更なし	変更なし	165.2*6 /114.3*6	7.1*1,*6 /6.0*1,*6	SPTT370*6

(続き)

変更前				変更後								
名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 ^{*1} (mm)	厚さ (mm)	材料	名称	最高使用圧力 (MPa)	最高使用温度 (°C)	外径 ^{*1} (mm)	厚さ (mm)	材料	
(前頁からの続き)	0.70 ^{*3}	38	114.3	6.0 ^{*1}	SPT370 ^{*4}	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	
	0.70 ^{*3}	50	114.3	6.0 ^{*1}	SPT370 ^{*4}		0.70 ^{*7}	50 ^{*7}	165.2 ^{*6} /114.3 ^{*6}	7.1 ^{*1, *6} /6.0 ^{*1, *6}	7.1 ^{*1, *6} /6.0 ^{*1, *6}	SPT370 ^{*6}
	0.70 ^{*3}	50	165.2	7.1 ^{*1}	SPT370 ^{*4}		0.70 ^{*7}	50 ^{*7}	216.3 ^{*6} /165.2 ^{*6}	8.2 ^{*1, *6} /7.1 ^{*1, *6}	8.2 ^{*1, *6} /7.1 ^{*1, *6}	SPT370 ^{*6}
	0.70 ^{*3}	50	216.3	8.2 ^{*1}	SPT370 ^{*4}		0.70 ^{*7}	50 ^{*7}	216.3 ^{*6} /165.2 ^{*6}	8.2 ^{*1, *6} /7.1 ^{*1, *6}	8.2 ^{*1, *6} /7.1 ^{*1, *6}	SPT370 ^{*6}
	0.70	50	216.3	8.2 ^{*1}	SPT370 ^{*4}		変更なし	変更なし	267.4 ^{*6} /216.3 ^{*6}	9.3 ^{*1, *6} /8.2 ^{*1, *6}	9.3 ^{*1, *6} /8.2 ^{*1, *6}	SPT370 ^{*6}
	0.70	50	267.4	9.3 ^{*1}	SPT370 ^{*4}		0.70 ^{*7}	50 ^{*7}	267.4 ^{*6} /267.4 ^{*6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	SPT370 ^{*6}
	0.70	66	267.4	9.3 ^{*1}	SPT370 ^{*4}		0.70 ^{*7}	66 ^{*7}	267.4 ^{*6} /267.4 ^{*6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	SPT410 ^{*6}
	0.70	66	267.4	9.3 ^{*1}	SPT38		0.70 ^{*7}	66 ^{*7}	267.4 ^{*6} /267.4 ^{*6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	SPT410 ^{*6}
	0.70	66	267.4	7.0 (9.3 ^{*1})	SPT410		0.70 ^{*7}	66 ^{*7}	267.4 ^{*6} /267.4 ^{*6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	SPT410 ^{*6}
	0.70	66	267.4	7.0 (9.3 ^{*1})	SPT410		0.70 ^{*7}	66 ^{*7}	267.4 ^{*6} /267.4 ^{*6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	9.3 ^{*1, *6} /9.3 ^{*1, *6}	SPT410 ^{*6}
非常用ディーゼル発電装置												
非常用ディーゼル発電機冷水冷却器 放出配管分岐点												
非常用ディーゼル発電装置												

(続き)

変更前				変更後								
名	称	最高使用 力 圧 (MPa)	最高使用 温 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名 称	最高使用 力 圧 (MPa)	最高使用 温 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料
非常用ディーゼル発電装置	放出配管分岐点 弁7-13V91, 弁7-13V89	0.70	66	267.4	7.0 (9.3*)	SPT410	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
	弁7-13V91, 弁7-13V89	0.70	66	267.4	7.0 (9.3*)	SPT410	非常用ディーゼル発電装置	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
	放水路	0.70	66	267.4	7.0 (9.3*)	SPT410	非常用ディーゼル発電装置	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし
非常用放出配管	放出配管分岐点 ～ 放水先	0.70	66	267.4	7.0 (9.3*)	SPT410	変更なし	0.70*7	66*7	267.4*6,*9	9.3*1,*6,*9	SPT410*6,*9

注記

- *1：公称値を示す。
- *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ (A, B) より空気冷却器及び燃料弁冷却器まで (二重管部分を除く)」と記載。
- *3：S I 単位に換算したもの。
- *4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *5：エルボにあっては、管と同等以上の厚さのものを選定。
- *6：本設備は既存の設備である。
- *7：重大事故等時における使用時の値を示す。
- *8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ストレーナーから原子炉建屋トレンチまで (非常用ディーゼル発電機および高圧炉心スプレイスライ系ディーゼル発電機用とも)」と記載。
- *9：エルボを示す。
- *10：本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。
- *11：記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気冷却器及び燃料弁冷却器より放水路まで (放出配管)」と記載。

2.2 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置

(2) 内燃機関に係る次の事項

イ 機関の名称，種類，出力，回転速度，燃料の種類及び使用量，個数並びに取付箇所並びに過給機の種類，出口の圧力，回転速度，個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

			変更前	変更後	
名 称			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内 燃機関*1	変更なし	
機 関	種 類	—	ディーゼル機関*2		
	出 力	kW/個	3050*3, *4		
	回 転 速 度*5	min ⁻¹ *6	429		
	燃 料	種 類	—		軽油*7
		使 用 量	L/h/個		880*7
	個 数	—	1		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 内燃機関 高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置*7		
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 0.70 m*7		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		CS-B1-4
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—	EL. 0.70 m 以上	
過 給 機	種 類	—	排気タービン式	変更なし	
	出 口 の 圧 力	kPa	123*3 (最大連続回転時)		
	回 転 速 度*5	min ⁻¹ *6	16250 (最大連続回転数)		
	個 数	—	2		
	取 付 箇 所	—	機関と同じ*7		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「内燃機関」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「4サイクル堅形 ディーゼル機関」と記載。

*3：S I 単位に換算したもの。

*4：ディーゼル機関の出力を示す。

*5：記載の適正化を行う。既工事計画書には「回転数」と記載。

*6：記載の適正化を行う。既工事計画書には「r. p. m」と記載。

*7：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ロ 調速装置及び非常調速装置の名称及び種類

		変 更 前		変 更 後
名	称	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 調速装置	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 非常調速装置	変更なし
種	類	油圧式	電気-空気式	

ハ 内燃機関に附属する冷却水設備の名称，種類，容量，個数及び取付箇所
 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変 更 前	変 更 後
名 称			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 冷却水ポンプ*1	変更なし
ポ ン プ	種 類	—	うず巻形*2	
	容 量	m ³ /h/個		
	個 数	—	1	
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 冷却水ポンプ 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置*4	
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL.0.70 m*4	
	溢水防護上の区画 番 号	—	—	CS-B1-4
	溢 水 防 護 上 の 配慮が必要な高さ	—	—	EL.0.70 m 以上

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「機関直結ポンプ」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「横軸単段うず巻形」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

ニ 内燃機関に附属する空気圧縮設備に係る次の事項

1 空気だめの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

名 称		変 更 前		変 更 後	
種 類	—	高压炉心スプレイスライ系ディーゼル発電機空気だめ A	高压炉心スプレイスライ系ディーゼル発電機空気だめ B*1		
容 量	m ³ /個*3		横置円筒形*2 以上*5 (3*4, *6)		
最 高 使 用 圧 力	MPa		3.24*7		
最 高 使 用 温 度	℃		60*8		
主 要 寸 法	胴 内 径	1200*6, *8	1200*6, *8		
	胴 板 厚 さ*9		(22*6)		
	鏡 板 厚 さ		(22*6)		
寸 法	鏡板の形状に係る寸法	1200*6, *8 (内面における最短)			
	マンホール外径	300*6, *8 (内面における短径の2分の1)			
	マンホール厚さ	424.0*6, *10, *11, 324.0*6, *10, *12			
	マンホール平板厚さ		(22*6, *8) (36*6, *8)		
材 料	全 長	2904*6, *10			
個 数	胴 板	SM50B			
	鏡 板	SM50B*8			
	マンホール平板	SM50B*8			
取 付 箇 所	系 (ライ) 名	高压炉心スプレイスライ系ディーゼル発電機空気だめ A 高压炉心スプレイスライ系ディーゼル発電装置*5	高压炉心スプレイスライ系ディーゼル発電機空気だめ B 高压炉心スプレイスライ系ディーゼル発電装置*5		
	設置床	原子炉建屋付属棟 EL.-4.00 m*5			
注 記	溢水防護上の区画番号	—	—		
	溢水防護上の配慮が必要な高さ	—	—		

*1: 本設備は記載の適正化のみを行うものであり, 手続き対象外である。

*2: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒筒形定置式」と記載。

*3: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「0」と記載。

*4: 記載の適正化を行う。既工事計画書には「3,000」と記載。

*5: 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は, 設計図書による。

*6: 公称値を示す。

*7: S I 単位に換算したものの。

- *8：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年11月27日付け建発第112号で届出た工事計画の添付書類「III-1-17 内燃機関に附属する空気だめの強度計算書」による。
- *9：記載の適正化を行う。既工事計画書には「板厚」と記載。
- *10：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年11月27日付け建発第112号で届出た工事計画の添付図面「第10-6図 空気だめ本体図（1/2）（高圧炉心スプレイ系デザイナー発電装置用）」による。
- *11：マンホール管台外径における長径を示す。
- *12：マンホール管台外径における短径を示す。
- *13：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2」と記載。

2 空気だめの安全弁の名称、種類、吹出圧力、吹出量、主要寸法、材料、個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

名 称		変 更 前		変 更 後	
種 類	—	3-14Z201*1	3-14Z202*1、*2		
吹 出 圧 力	MPa	非平衡型*3			
吹 出 量	kg/h	3.24*4、*5			
主 呼 び 径	—	262以上*4			
リ フ ト	mm	20 A			
の ど 部 の 径	mm				
弁 座 口 の 径	mm				
材 料	—	SF440A*7			変更なし
個 数	—	1**8	1**8		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	3-14Z201 高压炉心スプレイスライ系ダイヤゼル発電装置*7	3-14Z202 高压炉心スプレイスライ系ダイヤゼル発電装置*7		
	設 置 床	原子炉建屋付属棟 EL.-4.00 m*7	原子炉建屋付属棟 EL.-4.00 m*7		
	溢 水 防 護 上 の 画 番 号	—	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「空気だめの安全弁」と記載。

*2：本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

*3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「低揚程バネ式」と記載。

*4：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、昭和51年11月27日付け建発第112号で届出た工事計画の添付書類「III-1-18 内燃機関に附属する空気だめの安全弁の吹出量計算書」による。

*5：S I 単位に換算したもの。

*6：公称値を示す。

*7：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

*8：記載の適正化を行う。既工事計画書には「2（空気だめ1個につき1個）」と記載。

ホ 燃料デイトンク又はサービスタンクの名称, 種類, 容量, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所(常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前*1	変更後	
名称			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機燃料油 デイトンク	変更なし	
種類	—		横置円筒形		
容量	m ³ /個		□以上 (7.5*2)		
最高使用圧力	MPa		静水頭		
最高使用温度	℃		55		
主要寸法	胴内径	mm	1800*2		
	胴板厚さ	mm	□(9*2)		
	鏡板厚さ	mm	□(9*2)		
	鏡板の形状に係る寸法	mm			1800*2 (鏡板中央部内半径)
					180*2 (鏡板隅の丸み半径)
	管台外径(燃料入口)	mm			48.6*2
	管台厚さ(燃料入口)	mm	□		(3.7*2)
	管台外径(燃料出口)	mm			60.5*2
	管台厚さ(燃料出口)	mm	□		(3.9*2)
	マンホール外径	mm			518*2
	マンホール厚さ	mm	□		(9*2)
	マンホール平板厚さ	mm	□		(12*2)
全長	mm		3560*2		
材料	胴板	—	SS41 相当		
	鏡板	—	SS41		
	マンホール平板	—	SS41 相当		
個数	—		1		

NT2 補① II R1

(続き)

			変 更 前*1	変 更 後
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機 燃料油デイトンク 高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置	変更なし
	設 置 床	—	原子炉建屋付属棟 EL. 4. 65 m	
	溢水防護上の区画番号	—	—	CS-B1-7
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—		—

注記 *1：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
*2：公称値を示す。

(6) 冷却設備に係る次の事項

ロ ポンプの名称, 種類, 容量, 揚程又は吐出圧力, 最高使用圧力, 最高使用温度, 主要寸法, 材料, 個数及び取付箇所並びに原動機の種類, 出力, 個数及び取付箇所 (常設及び可搬型の別に記載すること。)

・常設

			変更前	変更後	
名 称			高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機用 海水ポンプ	変更なし	
ポ ン プ	種 類	—	ターボ形		
	容 量	m ³ /h/個	232.8 以上 (232.8 ^{*1})		
	揚 程	m	43 以上 (43 ^{*1})		
	最 高 使 用 圧 力	MPa	0.70		
	最 高 使 用 温 度	℃	38		
	主 要 寸 法	吸 込 内 径	mm		187.0 ^{*1}
		吐 出 内 径	mm		250.0 ^{*1}
		コ ラ ム 外 径	mm		318.5 ^{*1}
		コ ラ ム 厚 さ	mm		 (10.0 ^{*1})
		高 さ	mm		8743 ^{*1}
材 料	ケ ー シ ン グ	—	 		
個 数	—	1			
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	高圧スプレイ系 ディーゼル発電機用 海水ポンプ 高圧スプレイ系 ディーゼル発電装置 ^{*2}		
	設 置 床	—	海水ポンプ室 EL. 0.80 m ^{*2}		
	溢 水 防 護 上 の 区 画 番 号	—	—		
	溢 水 防 護 上 の 配 慮 が 必 要 な 高 さ	—	—		

(続き)

			変 更 前	変 更 後
原 動 機	種 類	—	誘導電動機	変更なし
	出 力	kW/個	55* ¹	
	個 数	—	1	
	取 付 箇 所	—	ポンプと同じ* ²	

注記 *1：公称値を示す。

*2：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。

ハ ろ過装置の名称，種類，容量，最高使用圧力，最高使用温度，主要寸法，材料，
個数及び取付箇所（常設及び可搬型の別に記載すること。）

・常設

		変 更 前		変更後
名 称		高压炉心スプレイ系ディーゼル 発電機用海水ストレーナ		変更なし
種 類	—	たて置円筒形*1		
容 量	m ³ /h/個	386 以上 (386*3)		
最 高 使 用 圧 力	MPa	0.70*4		
最 高 使 用 温 度	℃	38		
主 要 寸 法	胴 内 径	mm		
	胴 板 厚 さ	mm		
	カ バ ー 厚 さ	mm		
	管台口径（海水入口）	mm		
	管台厚さ（海水入口）	mm		
	管台口径（海水出口）	mm		
	管台厚さ（海水出口）	mm		
	フ ラ ン ジ 厚 さ	mm		
	全 長	mm		
材 料	胴*2	—	SCS14	
	ボ ン ネ ッ ト*2	—	SCS14	
	カ バ ー*2	—	SCS14	
	フ ラ ン ジ*2	—	SCS14	
個 数	—	1		
取 付 箇 所	系 統 名 (ラ イ ン 名)	—	高压炉心スプレイ系ディーゼル 発電機用海水ストレーナ 高压炉心スプレイ系 ディーゼル発電装置*5	
	設 置 床	—	海水ポンプ室 EL.0.80 m*5	
	溢水防護上の区画番号	—	—	
	溢水防護上の 配慮が必要な高さ	—		

注記 *1：記載の適正化を行う。既工事計画書には「円筒縦形」と記載。

*2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「主要材料」と記載。

*3：公称値を示す。

*4：S I 単位に換算したもの。

*5：既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は，設計図書による。

*6 : 既工事計画書に記載がないため記載の適正化を行う。記載内容は、昭和 50 年 10 月 6 日
付け 50 資庁第 8313 号にて認可された工事計画の添付図面「第 4-3 図 非常用予備発電
装置 内燃機関冷却系 ストレーナ構造図(その 2)(高圧炉心スプレイ系ディーゼル発
電機用)」による。

本 主配管の名称、最高使用圧力、最高使用温度、外径、厚さ及び材料（常設及び可搬型の別に記載し、可搬型の場合は、取付箇所を付記すること。）

・常設

変更前					変更後																																		
名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 圧力 (MPa)	最高使用 温度 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料																										
高圧炉心スプレイス ディーゼル発電機用 海水ポンプ ～ 高圧炉心スプレイス ディーゼル発電機用 海水ストレーナ	*2 高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ポンプ ～ 高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ストレーナ	0.70 ^{*4}	38	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし	変更なし ^{*6}	-	変更なし ^{*6}	-																										
														高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び 潤滑油冷却器 ～ 高圧炉心スプレイス ディーゼル発電機 清水冷却器	*2, *3, *7 高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ストレーナ ～ 空気冷却器及び 潤滑油冷却器 ～ 高圧炉心スプレイス ディーゼル発電機 清水冷却器	0.70 ^{*4}	38	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし ^{*6}	-	変更なし ^{*6}	-													
																											高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ストレーナ	*2, *3, *7 高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ストレーナ	0.70 ^{*4}	38	318.5 ^{*5}	□ ^{*5} (13 ^{*1, *5})	STPT410 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし ^{*6}	267.4 ^{**8} /267.4 ^{**8}	9.3 ^{*1, **9} /- /9.3 ^{*1, **8}	STPT410 ^{**8}
高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ストレーナ	高圧炉心スプレイス系 ディーゼル発電機用 海水ストレーナ	0.70 ^{*4}	38	267.4	9.3 ^{*1}	STPT42	変更なし	変更なし	変更なし ^{*6}	267.4 ^{**8} /267.4 ^{**8} /- /165.2 ^{**8}	9.3 ^{*1, **8} /9.3 ^{*1, **8} /- /7.1 ^{*1, **8}	STPT410 ^{**8}																											
高圧炉心スプレイス系ディーゼル発電装置																																							
(次頁へ続く)		0.70 ^{*4}	38	165.2	7.1 ^{*1}	STPT370 ^{*5}	変更なし	変更なし	変更なし ^{*6}	変更なし ^{*6}	-	-	-																										
						STPT38																																	

(続き)

変更前					変更後									
名	称	最高使用 力 圧 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 力 圧 (MPa)	最高使用 温 度 (°C)	外 径*1 (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
	(前頁からの続き)			—										
	高圧炉心スプレイ系アイゼル発電装置	0.70*4	38	114.3	6.0*1	STPT370*5 STPT38			0.70*9	38*9	165.2*8 /114.3*8	7.1*1,*8 /6.0*1,*8	STPT370*8 STPT38*8	
		0.70*4	50	114.3	6.0*1	STPT370*5 STPT38			0.70*9	50*9	165.2*8 /114.3*8	7.1*1,*8 /6.0*1,*8	STPT370*8 STPT38*8	
		0.70*4	50	165.2	7.1*1	STPT370*5 STPT38			0.70*9	50*9	216.3*8 /165.2*8	8.2*1,*8 /7.1*1,*8	STPT38*8	
		0.70*4	50	216.3	8.2*1	STPT38 STPT370*5			0.70*9	50*9	216.3*8 /216.3*8 /165.2*8	8.2*1,*8 /8.2*1,*8 /7.1*1,*8	STPT370*8	
	高圧炉心スプレイ系アイゼル発電装置			—										

(続き)

変更前					変更後									
名	称	最高使用 力 圧 (MPa)	最高使用 度 温 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	名	称	最高使用 力 圧 (MPa)	最高使用 度 温 (°C)	外 径 ^{*1} (mm)	厚 さ (mm)	材 料	
高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機清 水冷却器 ～ 放出配管分岐点	放出配管分岐点 ～ 弁 7-13V90	0.70	50	216.3	8.2 ^{*1}	STPT370 ^{*5} STPT410 ^{*9}	変更なし	変更なし	0.70 ^{*9}	50 ^{*9}	267.4 ^{*8} /— /216.3 ^{*8}	9.3 ^{*1, *8} /— /8.2 ^{*1, *8}	STPT410 ^{*8}	
		0.70	50	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410 ^{*9}			0.70 ^{*9}	50 ^{*9}	267.4 ^{*8} /267.4 ^{*8} /—	9.3 ^{*1, *8} /9.3 ^{*1, *8} /—	9.3 ^{*1, *8} /9.3 ^{*1, *8} /—	STPT410 ^{*8}
	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機清 水冷却器 ～ 放出配管分岐点	放出配管分岐点 ～ 弁 7-13V90	0.70	66	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410 ^{*5} STPT410	変更なし	変更なし	0.70 ^{*9}	66 ^{*9}	267.4 ^{*8} /— /267.4 ^{*8}	9.3 ^{*1, *8} /— /9.3 ^{*1, *8}	STPT410 ^{*8}
			0.70	66	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410			0.70 ^{*9}	66 ^{*9}	267.4 ^{*8} /— /267.4 ^{*8}	9.3 ^{*1, *8} /— /9.3 ^{*1, *8}	9.3 ^{*1, *8} /— /9.3 ^{*1, *8}
	高圧炉心スプレイ系 ディーゼル発電機用の非常用 放出配管分岐点 ～ 放水先	放出配管 分岐点 ～ 放水先	0.70	66	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410	変更なし	変更なし	0.70 ^{*9}	66 ^{*9}	267.4 ^{*8, *11}	9.3 ^{*1, *8, *11}	STPT410 ^{*8, *11}
			0.70	66	267.4	9.3 ^{*1}	STPT410			0.70 ^{*9}	66 ^{*9}	267.4 ^{*8, *11}	9.3 ^{*1, *8, *11}	9.3 ^{*1, *8, *11}
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機装置													
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機装置													

注記

- *1：公称値を示す。
- *2：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高压炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ポンプより高压炉心スプレイポンプ室空調器及び高压炉心スプレイポンプモータ軸受冷却器、メカニカルシール冷却器まで（ポンプ吐出管）（二重管部分を除く）」と記載。
- *3：記載の適正化を行う。既工事計画書には「海水ストレーナから原子炉建屋トレンチまで（非常用ディーゼル発電機および高压炉心スプレイ系ディーゼル発電機用とも）」と記載。
- *4：S I 単位に換算したもの。
- *5：既工事計画書に記載がないため、記載の適正化を行う。記載内容は、設計図書による。
- *6：エルボにあつては、管と同等以上の厚さのものを選定。
- *7：記載の適正化を行う。既工事計画書には「ポンプ吐出管より空気冷却器、燃料弁冷却器、潤滑油冷却器及び一次冷却水冷却器を経て前記配管まで」と記載。
- *8：本設備は既存の設備である。
- *9：重大事故等時における使用時の値を示す。
- *10：記載の適正化を行う。既工事計画書には「高压炉心スプレイポンプ室空調器及び高压炉心スプレイポンプモータ軸受冷却器、メカニカルシール冷却器より放水路まで（放出配管）」と記載。
- *11：エルボを示す。
- *12：本設備は記載の適正化のみを行うものであり、手続き対象外である。

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (1/9)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後				
			名称	設計基準対象施設*1		名称	設計基準対象施設*1				
				耐震重要度分類	機器クラス		設備分類	重大事故等機器クラス	耐震重要度分類	機器クラス	設備分類
常用電源設備との切替方法	非常用ディーゼル発電機	非常用ディーゼル発電機 (常用電源設備との切替方法)*2	—	—	—	変更なし	—	—	—		
			—	—	—	変更なし	—	—	—		
	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 (常用電源設備との切替方法)*2	—	—	—	変更なし	—	—	—		
			—	—	—	変更なし	—	—	—		
			—	—	—	変更なし	—	—	—		
常設代替高圧電源装置	常設代替高圧電源装置 (常用電源設備との切替方法)*3	—	—	—	変更なし	—	—	—			
		—	—	—	変更なし	—	—	—			
緊急時対策所用発電機	緊急時対策所用発電機 (常用電源設備との切替方法)*3	—	—	—	変更なし	—	—	—			
		—	—	—	変更なし	—	—	—			
可搬型代替低圧電源車	可搬型代替低圧電源車 (常用電源設備との切替方法)*3	—	—	—	変更なし	—	—	—			
		—	—	—	変更なし	—	—	—			
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	内燃機関	機間並びに過給機	非常用ディーゼル発電機 内燃機関	S	火力技術基準	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			調速装置及び非常調速装置	非常用ディーゼル発電機 調速装置	S	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—	
			内燃機関に付属する冷却水設備	非常用ディーゼル発電機 非常調速装置 非常用ディーゼル発電機 冷却水ポンプ	S	—	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—
		内燃機関	内燃機関に付属する空気圧縮設備 (空気だめ)	非常用ディーゼル発電機 空気だめA	S	クラス3	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
			内燃機関に付属する空気圧縮設備 (空気だめ)	非常用ディーゼル発電機 空気だめB*4	C	クラス3	—	—	—	常設耐震/防止 常設/緩和	S Aクラス2
			—	3-14Z1	S	—	—	変更なし	—	常設耐震/防止 常設/緩和	—
		燃料設備	燃料デایتタンク又はサービスタタンク	非常用ディーゼル発電機 燃料油デایتタンク	C	—	—	—	—	—	—
			ポンプ	非常用ディーゼル発電機 燃料移送ポンプ	S	—	—	—	—	—	—
			容器	軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	—	—	—	—	—
		非常用ディーゼル発電装置	非常用ディーゼル発電装置	内燃機関に付属する空気圧縮設備 (空気だめの安全弁)	3-14Z102*4	C	—	—	—	—	—
				—	3-14Z101	S	—	—	—	—	—
				—	3-14Z102*4	C	—	—	—	—	—
		—	—	—	—	—	—	—	—	—	
—	—	—	—	—	—	—	—	—			
—	—	—	—	—	—	—	—	—			
—	—	—	—	—	—	—	—	—			
—	—	—	—	—	—	—	—	—			
—	—	—	—	—	—	—	—	—			
—	—	—	—	—	—	—	—	—			

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (2/9)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後				
			名称	設計基準対象施設*1 耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス	名称	設計基準対象施設*1 耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	燃料設備	軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
			非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
		主配管	非常用ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
			非常用ディーゼル発電機燃料油ディタンク	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
		燃料油フィルタ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
		燃料油フィルタ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
		発電機	非常用ディーゼル発電機	S	-	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	-
			非常用ディーゼル発電機励磁装置	S	-	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	-
		保護継電装置	非常用ディーゼル発電機保護継電装置	S	-	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	-
			原動機との連結方法	-	-	-	-	変更なし	-	-	-
ポンプ	非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ	S	クラス3	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2		
	非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2		
冷却設備	非常用ディーゼル発電機用海水ポンプ	S	クラス3	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2		
	非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2		
主配管	非常用ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2		
	空気冷却器及び潤滑油冷却器	S	クラス3	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2		
非常用ディーゼル発電機清水冷却器	S	クラス3	-	-	-	変更なし	-	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2		

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (3/9)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後				
			名称	設計基準対象施設*1		重大事故等 機器クラス	名称	設計基準対象施設*1		重大事故等 機器クラス	
				耐震 重要度 分類	機器クラス			耐震 重要度 分類	機器クラス		
非常用発電装置	非常用ディーゼル発電装置	冷却設備	非常用ディーゼル発電機清 水冷却器	S	Non	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
			放出配管分岐点	S	Non	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
			放出配管分岐点	C	Non	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
			弁7-13V91, 弁7-13V89 ~ 弁7-13V91, 弁7-13V89 放水路*4	S	Non	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
		内燃機関	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	機関並びに過給機	S	火力技術基準	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
				調速装置及び非常調速装置	S	-	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	-
				内燃機関に付属する冷却水設備	S	火力技術基準	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
				内燃機関に付属する空気圧縮設備 (空気だめ)	C	クラス3	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2
				内燃機関に付属する空気圧縮設備 (空気だめの安全弁)	S	-	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	-
				燃料デイトアンク又はサーピスタ ンク	S	火力技術基準	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準
燃料設備	ポンプ	燃料デイトアンク又はサーピスタ ンク	S	火力技術基準	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準		
		容器	S	火力技術基準	-	変更なし	変更なし	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準		
							軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	火力技術基準	

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (4/9)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後					
			名称	設計基準対象施設*1 耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス	名称	設計基準対象施設*1 耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス
非常用発電装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	燃料設備 主配管	軽油貯蔵タンク	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料移送ポンプ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油ディタンク	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機燃料油ディタンク	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			燃料油フィルタ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			燃料油フィルタ	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機内燃機関	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機励磁装置	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機保護継電装置	S	火力技術基準	-	変更なし	-	火力技術基準	常設耐震/防止 常設/緩和	火力技術基準	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機 (原動機との連結方法) *2	-	-	-	-	-	変更なし	-	-	-
			ポンプ	S	クラス3	-	変更なし	-	変更なし	クラス3	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2
ろ過装置	S	クラス3	-	変更なし	-	変更なし	クラス3	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2			
主配管	S	クラス3	-	変更なし	-	変更なし	クラス3	常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2			
冷却設備												

表1 非常用電源設備の主要設備リスト (5/9)

設備区分	系統名	機器区分	変更前				変更後				
			名称	設計基準対象施設*1 耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類	重大事故等 機器クラス	名称	設計基準対象施設*1 耐震 重要度 分類	機器クラス	設備分類
非常用発電装置	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電装置	冷却設備 主配管	高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機用海水ストレーナ	S	クラス3	-	変更なし		常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
			空気冷却器及び潤滑油冷却器								
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器	S	Non	-	変更なし		常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	
			高圧炉心スプレイ系ディーゼル発電機清水冷却器	S	Non	-	変更なし				
			放出配管分岐点	S	Non	-	変更なし				
			放出配管分岐点	C	Non	-	変更なし				
			放出配管分岐点 放水先	S	Non	-	変更なし		常設耐震/防止 常設/緩和	SAクラス2	

注記 *1：表1に用いる略語の定義は「原子炉本体」の「5 原子炉本体の基本設計方針、適用基準及び適用規格」の「表1 原子炉本体の主要設備リスト 付表1」による。

*2：設計基準対象施設及び重大事故等対処設備として使用する。

*3：重大事故等対処設備として使用する。

*4：本設備は記載の適正化のみ行うものであり、手続き対象外である。